

岡部六弥太中澄之墓(深谷市)

おかべろくやただずみ

正面が墓所の覆屋/左手に説明板がある



岡部六弥太忠澄の墓

岡部六弥太忠澄は、武藏上野のひとつ 藤原氏の出身で、嘉保野兵衛時總の孫。六太太忠純が横沢岡部に居住し、岡部氏と称した。

忠澄は忠順の孫にあたる。源義朝の家人として、保元・平治の乱に活躍した。六弥太の武功については、保元・平治物語、源平盛衰記に書かれており、特に持賢門の戦いでは、備前次郎直実、斎藤時実、諸侯平兵衛源氏十七騎の一人として勇名を挙げた。その後、源氏の没落により岡部にいたが治承四(一一八〇)年、細朝の養子とともに出陣し、はじめ木曾義仲を討討し、その後平氏を討つた。特に一の谷の合戦では平氏の名將曾根忠房を討ち、一躍名を挙げた。忠實として、井國五ヶ所及び伊勢國の地頭職が与えられた。その後、奥州の藤原氏征討軍を頼朝上洛の際の義代の家人(三三人の中にも六弥太の名が見える。忠澄は武勇に優れているだけでなく、情深く、自分の領地のうち一番景色のよい清心寺(現深谷市菩提)に平忠度の墓を建てた。現在地には鎌倉時代の典型的な五輪塔が六基並んで建っているが(県指定史跡)、北側の三基のうち中央の最も大きいものが岡部六弥太忠澄の墓(高さ一・八メートル)で、向かって右側が父行忠の墓、左側が夫人下の井の墓といわれている。

六弥太の墓石の形を照して飲むと、子のない女子には子ができ、乳の出ない女子は乳が出るようになるという迷信が伝わっており、このため現在、六弥太の五輪塔は削られ変形している。

平成三年三月

埼玉県
岡部町

おかべろくや ただすみ 岡部六弥太忠澄の墓

岡部六弥太忠澄は、武蔵七党のひとつ猪俣党の出身で、猪俣野兵衛時範の孫、六太夫忠綱が榛沢郡岡部に居住し、岡部氏と称した。

忠澄は忠綱の孫にあたる。源義朝の家人として、保元・平治の乱に活躍した。六弥太の武勇については、保元・平治物語、源平盛衰記に書かれており、特に待賢門の戦いでは、熊谷次郎直実、斎藤別当実盛、猪俣小平六等源氏十七騎の一人として勇名をはせた。その後、源氏の没落により岡部にいたが治承四（一一八〇）年、頼朝の挙兵とともに出陣し、はじめ木曾義仲を追討し、その後平氏を討った。特に一の谷の合戦では平氏の名将平忠度を討ち、一躍名を挙げた。恩賞として、莊園五カ所及び伊勢国の地頭職が与えられた。その後、奥州の藤原氏征討軍や頼朝上洛の際の譜代の家人三一人の中にも六弥太の名が見える。忠澄は武勇に優れているだけでなく、情深く、自分の領地のうち一番景色のよい清心寺（現深谷市萱場）に平忠度の墓を建てた。現在地には鎌倉時代の典型的な五輪塔が六基並んで建っているが（県指定史跡）、北側の三基のうち中央の最も大きいものが岡部六弥太忠澄の墓（高さ一・八メートル）、向かって右側が父行忠の墓、左側が夫人玉の井の墓といわれている。

六弥太の墓石の粉を煎じて飲むと、子のない女子には子ができ、乳の出ない女子は乳が出るようになるという迷信が伝わっており、このため現在、六弥太の五輪塔は削られ変形している。

史蹟と書かれた標柱



記念碑



覆屋の左手から六基の五輪塔を見る



左斜め手前から見る



左斜め背後から見る



正面の五輪塔が岡部六弥太忠澄の墓で、その右が父行忠の墓、左が夫人玉の井の墓とされる



覆屋正面右手から二基を見る/左手が岡部六弥太忠澄の五輪塔/右が父行忠の五輪塔



これが岡部六弥太忠澄の五輪塔



中央の二基/右手が夫人玉の井の五輪塔



左手の二基



背後から岡部六弥太忠澄の五輪塔(左)と夫人玉の井の五輪塔(右)を見る



覆屋の左側面を見る



覆屋を後方から見る



後方から見る



参考ホームページ

<http://www.fukaya-ta.com/midokoro/rokuyata/>

http://orange.zero.jp/ken-you_mark2.sky/syashin-genpei6.htm

<http://glassesmaiden.blog81.fc2.com/blog-entry-1903.html>

